

[385]九州大学大型計算機センターニュース :
No. 385

<https://doi.org/10.15017/4785621>

出版情報 : 九州大学大型計算機センターニュース. 385, pp.1-6, 1989-01-09. 九州大学大型計算機センター
バージョン :
権利関係 :



九州大学 大型計算機センターニュース

No. 385

福岡市東区箱崎 6 丁目 10 番 1 号
九州大学大型計算機センター
広報教育室 (TEL092-641-1101)
内線 2505

目 次

- | | |
|--|---|
| 1. EGRET/DRAW (図形編集・出力プログラム) のレベルアップについて | 1 |
| 2. 利用の手引「基本編」の発行について | 3 |
| 3. HISTORY コマンドの試用について | 3 |
| 4. 全国共同利用大型計算機センター顕彰について | 5 |

1. EGRET/DRAW (図形編集・出力プログラム) のレベルアップについて

1 月 9 日 (月) から、標記ソフトウェアがレベルアップされています。これに伴い、以下の各機能が追加されました。詳細については、文献〔1〕を参照してください。

会話型 EGRET/DRAW

- 1) 各メニューに追加されたコマンド入力行において、各種のサブコマンドをサポートした (表 1 を参照)。
- 2) プライマリメニューにおいて、前回作成中画面 (同一セッション内に限る) の復旧を行う機能をサポートした。
- 3) 図形登録において、図形サイズ情報を指定可能となるようサイズ情報設定属性機能をサポートした。
- 4) プレビュー時に ENTER キーを押下した場合の処理を変更可能 (処理の続行または終了) となるようプレビュー ENTER 属性機能をサポートした。
- 5) 保存画面データを編集する際に、表示モードを指定する機能をサポートした。
- 6) NLP への印刷時に、拡張漢字・非漢字コードの出力を指定する機能をサポートした。

バッチ型 EGRET/DRAW

- 1) PRTGRF 制御文に対する MEMBER 補助制御文において、複数メンバの指定を可能とした。

- 2) PRTGRF制御文において、メンバ毎の改ページの有無を指定可能となるように
FEED, NOFEEDオペランドをサポートした。
- 3) 印刷時のFACTORオペランドにPSパラメタ (PSPデータ印刷用サイズ) を
指定可能とした。
- 4) PRTGRF制御文, CRTOVL制御文によるNLPへの印刷時に、拡張漢字・
非漢字コードの出力が可能となるようKANJIオペランドをサポートした。

表1. サブコマンド一覧

機 能 属 性	画 面 推 移	属 性 変 更	
自動保存	{ AUTOSAVE AUTO }	動作	{ AUTOSAVE AUTO } = ON ((回数)) (注1)
		停止	{ AUTOSAVE AUTO } = OFF
PFキー定義	{ PFKEY PFK }	{ PFKEY番号 PFK番号 } = 機能番号 (注2)	
メッセージ表示	{ MESSAGE MSG }	動作	{ MESSAGE MSG } = ON
		停止	{ MESSAGE MSG } = OFF
図形再表示	{ REFRESH REF }	動作	{ REFRESH REF } = ON
		停止	{ REFRESH REF } = OFF
座標入力装置	{ DEVICE DEV }	{ DEVICE DEV } = { KEY MOU [(M) TAB [(C)] } (注3)	
コマンド入力	TSS	_____	
HELP画面	HELP	_____	
表示モード		バッファモード	BUF
		ノーバッファモード	NOBUF (注4)

- 注1) 省略時の回数は、20回である。
- 注2) 機能番号とは、PFキー定義メニュー（文献〔1〕2.2.2節参照）で使用している番号と同じものである。
- 注3) 省略形の意味は、以下のとおりである。
- KEY : キーボード
 - MOU : マウス
 - TAB : タブレット
 - M : マーカ
 - C : クロスヘアカーソル
- 注4) 現在の表示モードは、表示図形情報（機能選択メニューの'54'）を指定するという方法で表示される。なお、表示図形情報については、文献〔1〕2.3.5.4節を参照してください。

参考文献

1. 計算機マニュアル FACOM OSIV EGRET/DRAW手引書（図形編集・出力プログラム）V10用（70SP-3640-4），富士通㈱。
2. 九州大学大型計算機センターニュース，No. 344，図形編集・出力プログラム EGRET/DRAWの公開について。
3. 九州大学大型計算機センターニュース，No. 354，EGRET/DRAW（図形編集・出力プログラム）のレベルアップについて。

（ライブラリ室 電（内）2508）

2. 利用の手引「基本編」の発行について

この度、利用の手引「基本編」を作成しました。

この利用の手引は、九州大学大型計算機センターを利用する際に必要な手続き、および、センターの業務内容等に関する基本的事項をまとめたものです。御希望の方は、共同利用掛までお申し出ください。

（共同利用掛 電（内）2515）

3. HISTORYコマンドの試用について

このコマンドは、READY状態で投入するコマンドの履歴を取り、そのコマンドの再実行機能や修正再実行機能があります。これらは、複数のコマンドに対しても機能します。現在、このコマンドはテスト版であり、以下の制限があります。

- ・最後に投入されたコマンドからさかのぼって9個のコマンドの履歴しか保存されない。
- ・PFD, PFDE, FL, MLの再実行は無視される。このため、例えばPFDを起動するにはPFDと入力する必要がある。
- ・コマンド実行中にアテンションをかけるとREADY状態に戻ることがある。しかし、再びHISTORYコマンドを投入すれば、以前の履歴を利用できる。

使用例（下線は利用者入力部分）

READY

HISTORY

..... 履歴保存モードに切り替える

HIS>LISTC

IN CATALOG:SYS1.EDFUCAT1

A79999A.@CMSTAT.D881201.D881220

A79999A.A.LOAD

A79999A.AF77.TEXT

A79999A.ATFTEST.TEXT

A79999A.BITNET.ALL.NOTEBOOK

A79999A.BITNET.T.DATA

A79999A.BMT.FORT

A79999A.CMD.CLIST

HIS>TIME

KEQ56650I TIME-11:48:05 CPU-00:00:00 SERVICE-983 SESSION-00:01:11 DECEMBER 26, 1988

HIS>LISTD BITNET.ALL.NOTEBOOK M

A79999A.BITNET.ALL.NOTEBOOK

--RECFM=LRECL-BLKSIZE=DSORG

FB 80 3120 PO

--VOLUMES--

PUB128

--MEMBERS--

A70021AR

A70021BR

A70021CR

A70021DR

HIS>DEL BITNET.ALL.NOTEBOOK(A70031AR)

KQC3302I ACTION ERROR ON A79999A.BITNET.ALL.NOTEBOOK

KQC3330I ** A70031AR NOT FOUND

KQC0548I **MEMBER A70031AR NOT DELETED

KQC0014I LASTCC=8

HIS>#L

..... コマンドの履歴を表示する

1 LISTC

2 TIME

3 LISTD BITNET.ALL.NOTEBOOK M

4 DEL BITNET.ALL.NOTEBOOK(A70031AR)

HIS>#4/31/21/

..... コマンドを修正して実行する

DEL BITNET.ALL.NOTEBOOK(A70021AR)

KQC0549I MEMBER A70021AR DELETED

HIS>QUIT

..... 履歴保存モードを終了する

READY

HISTORY

HIS>#L 以前のコマンドの履歴は保存されている

1 LISTC

2 TIME

3 LISTD BITNET.ALL.NOTEBOOK M

4 DEL BITNET.ALL.NOTEBOOK(A70031AR)

5 DEL BITNET.ALL.NOTEBOOK(A70021AR)

HIS>QUIT

READY

注1) その他のコマンドの指定方法は以下の通りである。

HIS>## 直前に実行したコマンドの再実行

HIS>#1-3 1 から 3 までのコマンドの連続再実行

HIS>##/ABC// 直前に実行したコマンドの文字列中のABCを削除して実行

HIS>#4-6/ABC/XYZ/ 4 から 6 までのコマンドの文字列中のABCをXYZに変更して連続実行

注2) HISTORYコマンド終了後、再びコマンドの履歴保存モードに入って履歴を初期化したい場合はHISTORY NEWでコマンドを起動する。

(第一業務掛 電(内) 2517)

4. 全国共同利用大型計算機センター顕彰について

全国共同利用大型計算機センター長会議では、センター利用に顕著な学術的貢献があった方を顕彰する制度が設けられました。

本年度は、以下の方々が各センターにおいて表彰されました。

九州大学大型計算機センター

末永 正 (九州大学情報処理教育センター 助手)
「TSSコマンド入力支援システム：BTfの創作」

大阪大学大型計算機センター

牧之内 三郎 (大阪国際大学 教授)
山縣 敬一 (大阪大学工学部 助教授)
濱村 秀彦 (三菱重工業KK)
「ASTER (Advanced Software for intelligent TERminal)の開発」

京都大学大型計算機センター

三宅 一郎 (神戸大学法学部 教授)
「SPSS (Statistical Package for the Social Science)の普及」

名古屋大学大型計算機センター

二宮 市三 (中部大学 教授)

「名古屋大学数学ライブラリー (NUMPAC) の研究開発」

東京大学大型計算機センター

小澤 宏 (東京大学大型計算機センター 助手)

「TOOL-IR」

中川 徹 (富士通(株) 国際情報 社会科学研究所)

小柳 義夫 (筑波電子情報工学系 教授)

「最小二乗による実験データ解析プログラムSALSの創作」

東北大学大型計算機センター

松田 孝子 (東北大学大型計算機センター 助手)

「会話型データベース管理システムCOODの創作」

(広報教育室 電(内) 2508)